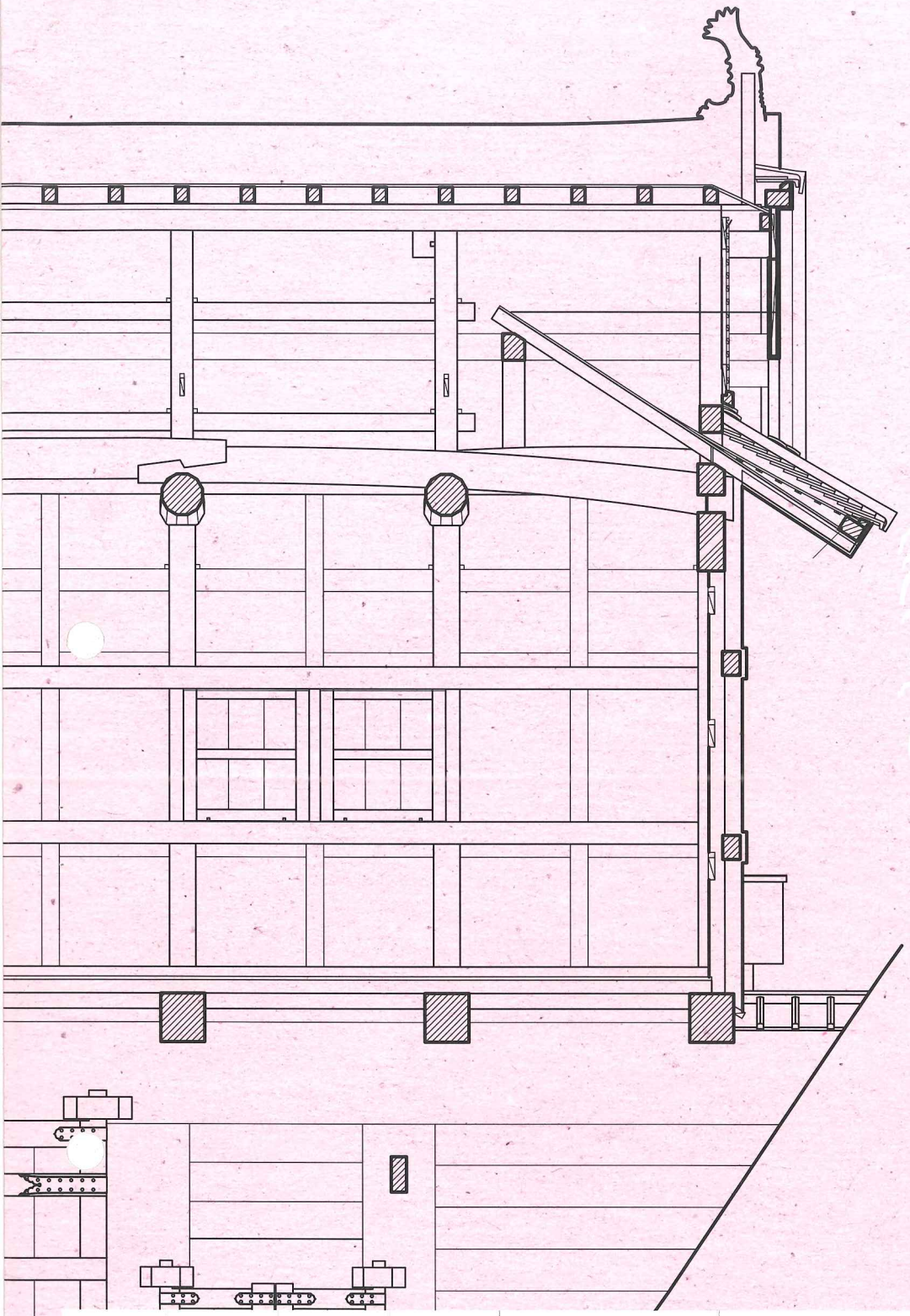
よみがえる鉄門（くろがねもん）

甲府城跡は、甲府中心市街地に位置し、舞鶴城公園としても皆様に愛されております。山梨県では、この甲府城跡に歴史的風格を蘇らせ、一層の利用促進と地域活性化に繋がることを願い、史実と伝統的工法に基づき鉄門復元整備に着手しました。



鉄門の姿かたちと構造

【規模】
三間一戸潜戸付渡櫓門
木造、八母屋造、本瓦葺、正背面庇付。
一階東側番所付。
一階：桁行　七・八七九m
梁間　四・五四五m
二階：桁行　一二・七二六m
梁間　五・四五四m
延床面積：　七五・十九㎡
建築面積：　七六・八一㎡
軒面積　：　一一六・四八㎡

【基礎】
遺構である礎石を利用しながら、補足的な鉄筋コンクリート基礎を追加。

【外部仕上】
一階板壁。
二階大壁、小舞下地、土壁、白漆喰仕上。

【内部仕上】
全面真壁。白漆喰仕上。

【屋根】
一階庇、片流れ、本瓦葺。
大屋根、八母屋造、本瓦葺。
大棟、降棟、隅棟で納め、大棟端に鬼瓦・鯱瓦を据える。

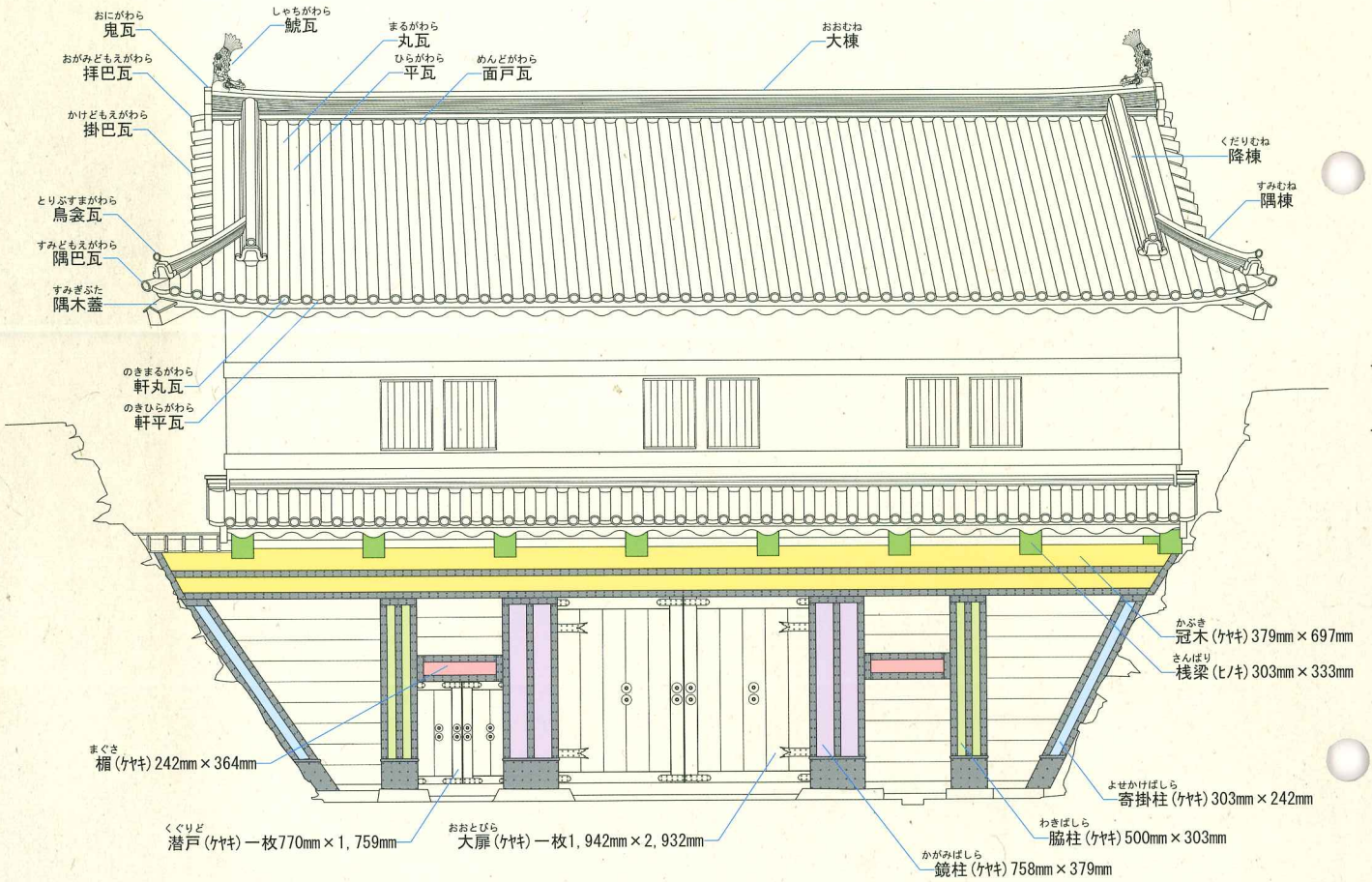
鉄門復元の道のり

史跡等の整備は一朝一夕というわけにはいきません。甲府城跡も長い年月、県民や有識者の方々の考えや協力を得ながら、一歩ずつ進んできました。

特に復元根拠となる発掘調査や絵図、古文書、古写真の基礎的研究は最重要課題であり、この基礎的調査研究と学際的な検討が復元事業の方向に大きく影響します。

現場でも土木技術者や職人、行政機関、委員会の有識者が一体となり文化財に向き合う必要があります。ここでは、平成20年度より検討を重ね具体化した鉄門の復元事業に関するプロセスや考え方を解説します。

委員会（専門部会）
歴史、考古、建造物、地盤工学、環境等学際的な検討と指導を受け復元根拠を整え、整備を進める。



南側立面図

鉄門復元の工程

石工事

鉄門の復元によって、石垣や礎石（そせき）などの大切な遺構を、傷つけないよう保護する必要がある。復元工事にあたり、まずは石垣や礎石の補修や保護から始まった。

発掘調査によって検出された江戸時代の遺構を保護するため、保護層を設け、更に養生した。

木工事

鉄門復元の見どころの一つである木工事。材料の選定から木材の組み方まで十分に議論し、長く後世に残る建物の復元を目指す。釘を使わずに木を組み合わせる在来工法も圧巻である。

鉄門正面に見える大きな鏡柱を立てる様子。礎石を傷つけないよう、確認しながらの作業となった。

左官工事

鉄門の壁は漆喰塗りで仕上げられる。刻んだ藁を混ぜた壁土を数ヶ月熟成させ、手作業で素早く丁寧に塗っていく。下塗りや仕上塗りの約８回の作業を経て、完成後は美しい漆喰の白壁を見ることができる。

発掘調査

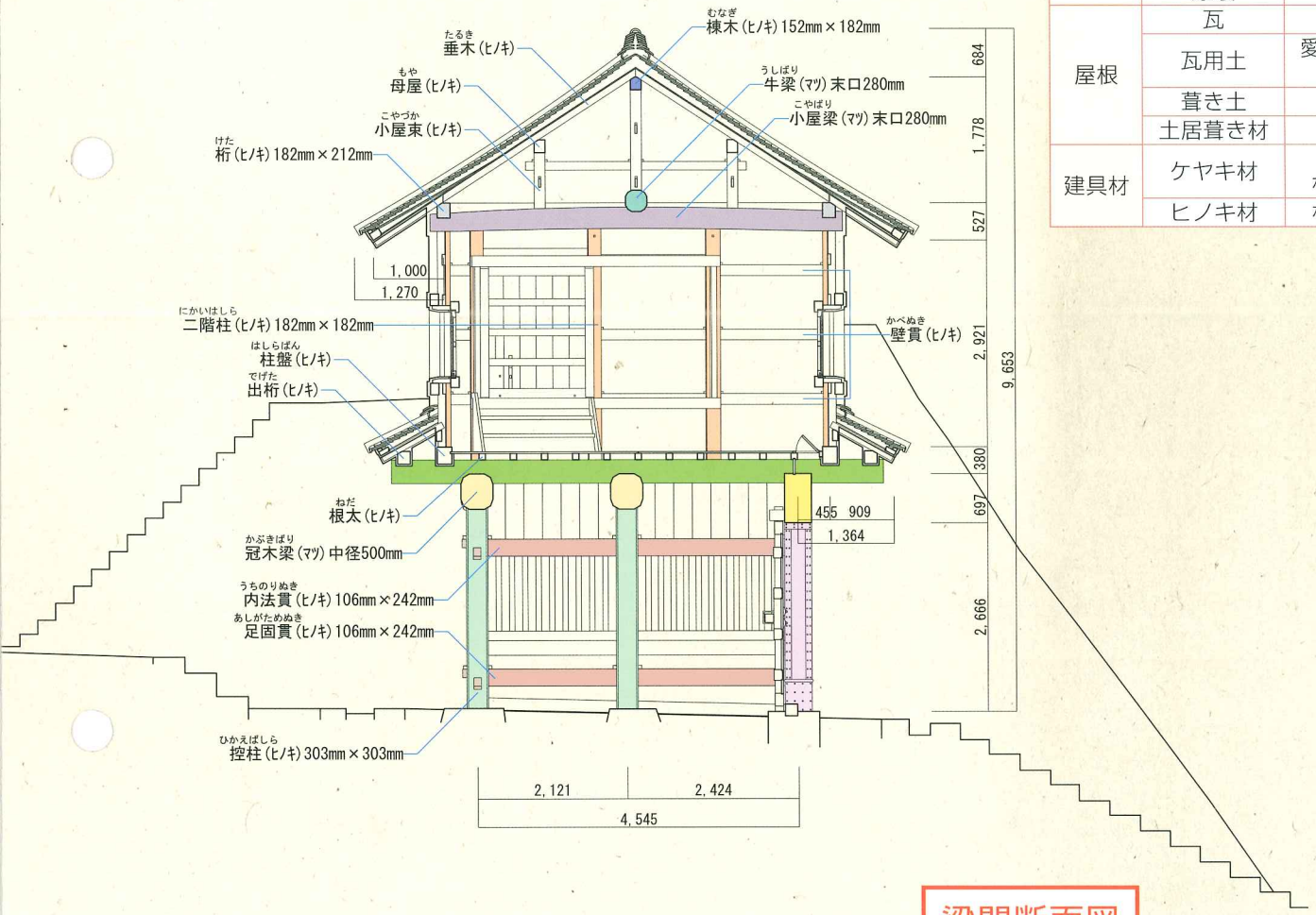
遺構は、建物の存在を証明する、地面に残る唯一の物証で、建物の規模や構造の大きな根拠となる。

学術・史料調査

絵図、古文書、古写真等は復元建物の姿かたちを解明する最重要情報。全国を調査し、基礎研究を確実に実施する。

主要材料原産地一覧

部位	品名	産地
木材	ケヤキ材	岐阜県 長野県
	松材	岩手県 福島県
	ヒノキ材	奈良県吉野郡
	杉材	山梨県
壁材	土	愛知県瀬戸市
	砂 （荒壁）	岐阜県 多治見市
	砂 （中塗り等）	山梨県
	竹	山梨県
	わらすさ	埼玉県
	漆喰	栃木県
屋根	瓦	奈良県
	瓦用土	愛知県高浜市 豊田市
	葺き土	奈良県
	土居葺き材	長野県
建具材	ケヤキ材	群馬県 栃木県方面
	ヒノキ材	栃木県日光



梁間断面図

小舞かきした上から荒壁土をつける荒壁つけ作業。この段階でしっかりと土を乾燥させないと、きれいな壁に仕上がらないため、重要な工程である。

屋根工事

本瓦葺の復元のため、土居葺きから瓦葺きの細部に至るまで、在来工法で実施する。

野地板の上に薄い杉板を貼る土居葺きの様子。丁寧かつ素早く板が敷かれていく。

瓦工事

今回、鉄門で使用する瓦は19種、約1万枚である。作成にあたっては、委員会の指導を仰ぎながら、城内の出土品を参考に、鉄門の歴史観に沿った瓦を復元した。

比較的鉄門に近い出土地点の鯱瓦をもとに、委員会の指導を受け、復元していく。

甲府城年表

慶長	12年	1607	義直、尾張へ転封し、 甲府城番制（武川十二騎）となる
元和	2年	1616	徳川忠長（家光の弟）が甲府城主となる
寛永	8年	1631	忠長、謀反の疑いで幽閉される
	10年	1633	忠長、高崎で切腹　甲府城番制（第２次）となる
寛文	元年	1661	徳川綱重（家光の二男）が甲府藩主となる
	4年	1664	綱重、甲府城大修理を実施
延宝	元年	1673	綱重の子綱豊が甲府藩主となる
宝永	元年	1704	綱豊が六代将軍家宣となる 柳沢吉保、甲府藩主となり大修理を実施
	2年	1705	城内の建物・曲輪の名称変更 このとき南門を鉄門と変更
	3年	1706	荻生徂徠、「風流使者記」を著す
	6年	1709	吉保が隠居し、子の吉里が甲府藩主となる
享保	9年	1724	吉里、大和郡山へ移封し、甲府勤番支配が始まる
	12年	1727	甲府大火で、城内と城下に甚大な被害 鉄門は延焼をまぬがれる
	19年	1734	城内に盗賊が侵入（御金蔵破り事件）
慶応	2年	1866	勤番制を廃止して城代を置く
	4年	1868	板垣退助率いる官軍が甲府城開城
明治	元年	1868	明治維新
	6年	1873	政府、甲府城を廃城とする この頃番所以外の城内の建物（鉄門を含む） ほぼ全て取り壊しとなる
	9年	1876	城内を勧業試験場とする
	10年	1877	葡萄酒醸造所を設置（鍛冶曲輪）
	33年	1900	甲府中学校を建設（楽屋曲輪）
	36年	1903	中央線甲府まで開通（清水曲輪等）
	37年	1904	甲府城跡を舞鶴城公園として解放
	39年	1906	城内で連合共進会を開催。遊亀橋を建築
大正	6年	1917	甲府城払い下げ。村松甚蔵の寄付により 県有財産となる
	11年	1922	本丸に謝恩碑を建設
	15年	1926	内堀の埋立て。県庁舎を新築
昭和	3年	1928	武徳殿を建設（二の丸）
	28年	1953	恩賜林記念館を建設（鍛冶曲輪）
	30年	1955	内堀を埋め立て、県民会館を建設
	40年	1965	青少年科学センターを建設（稲荷曲輪）
	41年	1966	県議会議員会館を建設（二の丸）
	43年	1968	県指定史跡として告示
平成	2年	1990	舞鶴城公園整備事業に着手
	16年	2004	稲荷櫓復元完成。整備事業完了
	22年	2010	鉄門復元着手
	24年	2012	鉄門復元完成

鉄門の歴史

甲府城跡は、豊臣秀吉の命により文禄、慶長年間（1590 年代）に築城された城郭です。城内に残る築城当時の野面積み石垣は、全国的に見ても文化財的価値が高く評価されるものです。しかし、歴史的建造物は明治初年の廃城後に取り壊されてしまい、約 140 余年を経て鉄門を復元するに至りました。

鉄門は、本丸と天守曲輪の境に建てられていた櫓門です。創建は、礎石に確認できる甲府城築城期の矢穴や江戸初期に描かれた絵図から、築城当初から存在したと考えられます。名称については、柳沢文庫所蔵『楽只堂年録』に「元ハ南門」とあり、宝永 2 年に柳沢氏が実施した城内の建物・曲輪の名称変更によって鉄門となったことがわかっています。

享保 12 年の甲府大火において焼失を免れた鉄門、屋根瓦の葺き替えなどはおこなっているものの、大きな修理をおこなった記録は確認されていないことから創建時の姿を明治初期まで保っていたと考えられます。また、明治初年頃の古写真にも２階の切妻部が写っており、その存在を確認することができます。

問い合わせ

山梨県埋蔵文化財センター
〒400-1508　山梨県甲府市下曽根町923
TEL:055–266–3016
http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/

甲府城跡HP「甲府城研究室」
http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/ko-fu_zyou/ko-fuzyou_kenkyuusitu.html

甲府城跡ブログ「くろちゃんの甲府城つづり」
http://blog.goo.ne.jp/koufujyou

案内図

富士の国やまなし国文祭

事業名
第28回国民文化祭・やまなし2013
（愛称：富士の国やまなし国文祭）

期　間
平成25年1月12日（土）～11月10日（日）

HPアドレス
http://www.pref.yamanashi.jp/kokubunsai2013/index.html